

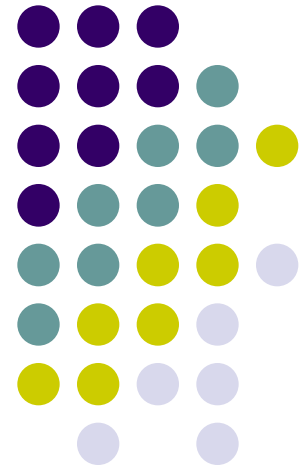
# 留学生の就職活動の動向と就労者を 対象とした日本語教育の動向



**International Communication Institute (ICI)**

代表取締役 山内政樹

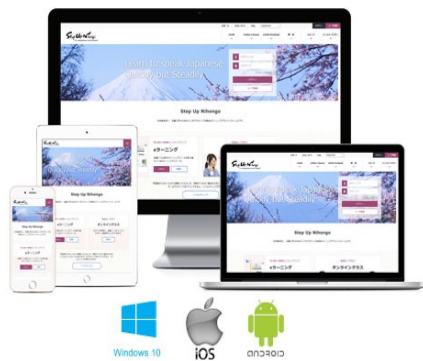
URL: <https://icijapan.com>



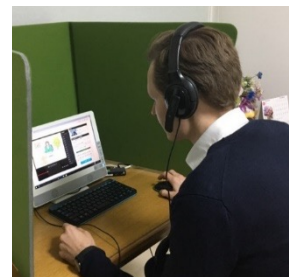
# ICI事業内容



- ・ 対面日本語研修
- ・ ハイブリッド日本語eラーニング
- ・ 口頭ビジネス日本語試験『ONiT』



**ONiT**  
Oral Nihongo Test



**Step Up Nihongo**  
For real japanese communication

# ICI主要顧客

---



## ・企業人事部／人材開発部

**大手商社**：三井物産株式会社、三菱商事株式会社など

**メーカー**：株式会社日立製作所、株式会社村田製作所など

**IT**：グーグル合同会社、楽天グループ株式会社など

**HITACHI**  
Inspire the Next

 **三菱商事**

  
MITSUI & CO.

**muRata**  
INNOVATOR IN ELECTRONICS

**Google**

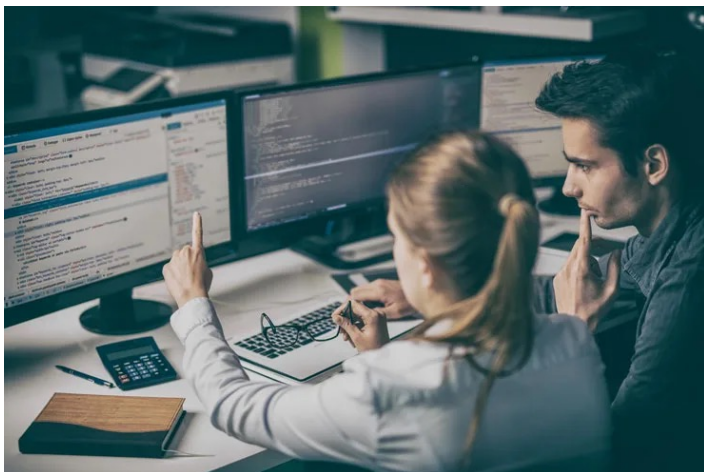
 **Rakuten**

# ICI主要顧客

---



- 日本語研修で求められるレベル



**技術系人材**

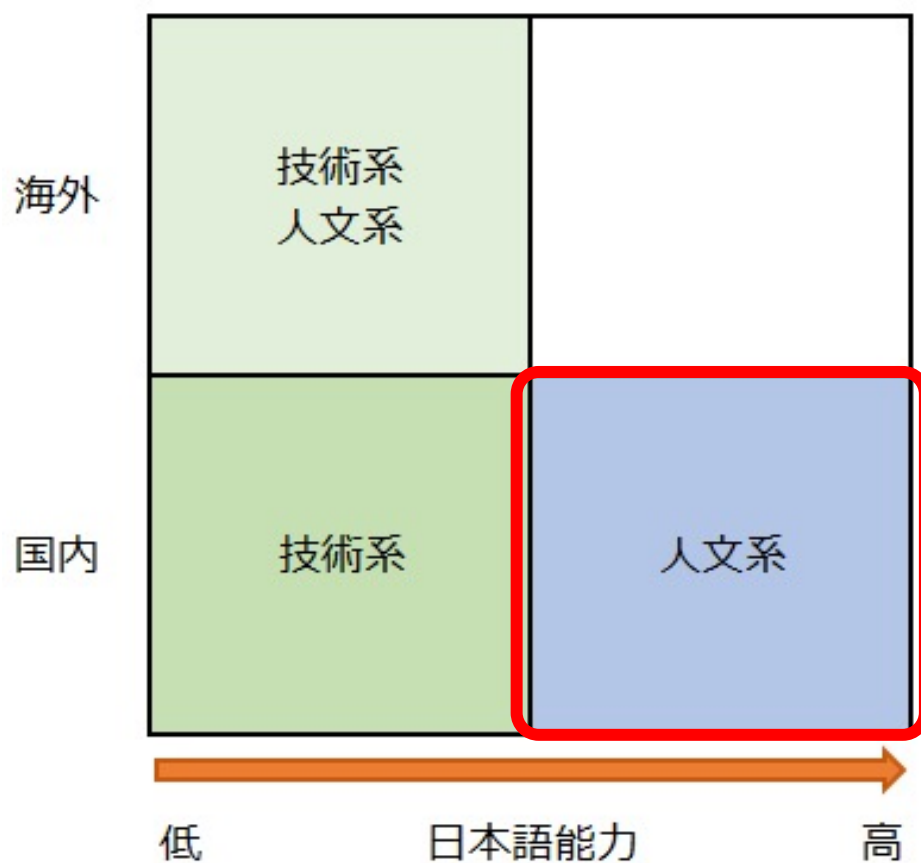


**人文系人材**



# ICI主要顧客

- ・日本語研修で求められるレベル



# 企業の「日本語人材」選定方法

---



- JLPT(N1)取得
- BJT(J1)取得
- 面接における適切な対応、など

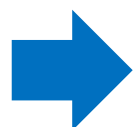
これらを満たしていれば、問題ないのか？

# 文化庁の取り組み

---



- ◆日本語に関する知識だけではなく、生活、留学、就労等に必要**な日本語のコミュニケーション能力**が求められるようになってきたことから、そのようなコミュニケーション能力を測定し判定することが求められている。
- ◆行動中心アプローチにおける言語教育の目標とは、言語使用者及び学習者がそれぞれの社会で求められる**課題を遂行**できるようになること。
- ◆複数の日本語能力判定試験が存在するが、**個々の指標に基づきレベルや判定基準が設定されている**こと。



**CEFRを利用した参照枠の必要性**



# 文化庁のCEFRを利用した「参照枠」



熟練した 言語使用者	C2
	C1
自立した 言語使用者	B2
	B1
基礎段階の 言語使用者	A2
	A1

## CEFRとは

ヨーロッパ言語共通参照枠

(Common European Framework of Reference for Languages)

文化庁「日本語教育の参照枠」二次報告

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/92880801\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/92880801_01.pdf)







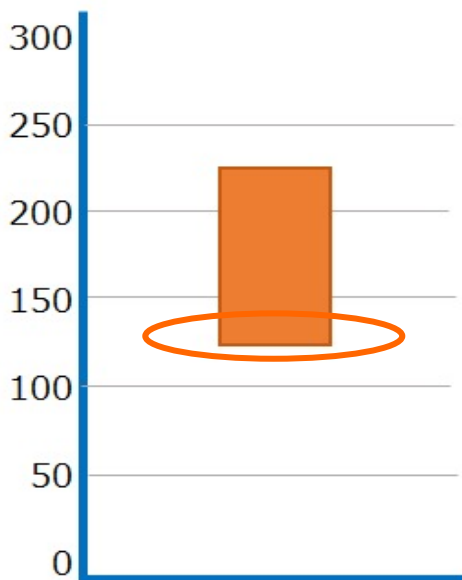
# 文化庁のCEFRを利用した「参照枠」

アルクの電話による日本語会話テスト JSST	○	○	-	-	-	-
TOPJ実用日本語通用能力試験	○	○	○	○	-	-
とよた日本語能力判定 (対象者判定テスト)	○	-	-	-	-	-
J-cert生活・職能日本語検定 (J-cert)	○	○	○	○	-	-
実践日本語コミュニケーション検定 (PJC)	○	○	○	○	- : 検討中	- : 検討中
浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム (HAJAC)	○	-	-	-	-	-
実践日本語コミュニケーション検定・ブリッジ (PJC Bridge)	○	○	○	○	- : 検討中	- : 検討中
OPIc (日本語版)	○	○	○	○	○	○
JLCT (外国人日本語能力検定)	-	-	○	○	○	○
ONIT口頭ビジネス日本語試験	○	○	○	○	○	○
日本語能力評価試験 (JPET)	○	○	○	○	-	-
国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic)	○	○	○	○	- : 検討中	- : 検討中



CEFRの考える3つの言語能力のうち、ビジネス場面における『**話す**』力にフォーカスしたICI独自の口頭能力試験。

ONiT スコア



同じJLPTのN1合格者であっても口頭能力となると、結果に大きな差が出ます。



## 【受験者感想（一部抜粋）】

“ONiTの試験の時もそうでしたが、普段の仕事の時も同じで、とにかく浮かんだことを相手に伝えようと必死に話していました。でも、その必死さが裏目に出て、相手には話したことを理解してもらえず、苦しんでいました。

以前は、「お前、何言っているのか分からない」などと言われていましたが、こうしたことはなくなり、仕事に注力できるようになったことが大きな収穫です。”



# ビジネスで必要な日本語能力

---

流暢な日本語  
美しい日本語

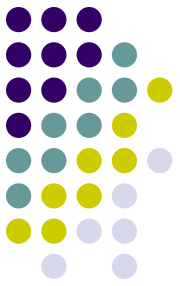
≠

ビジネスで使える日本語

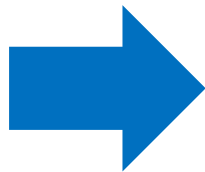


# ビジネスで必要な日本語能力

---



- 5W2Hを意識した発話
- 要約力
- 簡潔に話す力
- 一貫した論理構成



明快で分かりやすい



# 終わり

---



ご清聴ありがとうございました。

<参考>

- 文化庁「日本語教育の参照枠」二次報告

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/92880801\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/92880801_01.pdf)

- ONiT口頭ビジネス日本語試験

<https://www.oralnihongotest.org/>



International  
Communication  
Institute